

日本史を選択した新3年生の皆さんへ

登校できない日々が続いていますが、舟入高校生の皆さんは心身のリズムをうまく保って生活ができていますでしょうか？感染症の拡大という想定外の事態により世の中全体に様々な影響が起っているため、人々の心が動揺するのは仕方のないことです。感染症に関する情報を集め、そのうちから有益な情報を見極めて、自分たちの生活を防衛することがいま最も重要なことだと思います。一方で自分たちの本来の生活を崩さないために、動揺しがちな心を鎮めて、今できることをしっかりとやっておくことも重要だと思います。日常の生活は必ず戻ってきます。そのときにこの休業期間によって自分にとって負の影響が出ることはないように今一度自分の生活を見つめ直してみましよう。

さて、全国の多くの学校が休校に入ったのち、歴史本の売り上げが急伸しているというニュースがありました。この、予想外に生まれてしまった時間の一部を歴史を知る時間に充てるというのはいいことかもしれません。小説や新書本、マンガ、テレビ番組、映画などには、教科書や資料集では感じ取ることができないそれぞれの時代性や人々の感覚が表れているものが多くあります。授業で学んだ内容とそうしたメディアから得られる感覚がそれぞれのより深い理解につながるという経験をした先輩たちも多くいます。たとえば、授業で大正史、昭和史を学んだ後で久しぶりに『風立ちぬ』（宮崎駿監督）を見たという先輩は、最初に見たときにはわからなかった時代背景（関東大震災～第二次世界大戦）がよくわかったという感想を述べていました。

歴史は面白いことも多いのですが、それに気づくためには基礎知識を身につけることが必要です。皆さんに課した春の課題は、2年生の間に「習ったけれども身につけていない」基礎知識をここでしっかり身につけることを目的にしています。提出することが目的ではありません。身につけることが目的です。身につけるためにはどうすればいいか、自分のやり方を見つけてください。一般的には繰り返すことが有効と言われますが、有効な繰り返し方は人によって違うかもしれません。歴史学習において、春休みは3年生で飛躍できるかどうかの分かれ目です。ここで2年生の内容をすっかり忘れてしまうのか、それともさらにしっかりと頭に焼きつけられるのか。この春は努力型（記憶力が抜群によいわけではなく、理解が超早いわけでもないが、積み重ねで力を発揮するタイプ）を自覚するすべての生徒の皆さんにとって最も重要な時期の一つです。

春課題はしっかりやって損はありません。信じて頑張った人は必ずよい見返りを得ることができるでしょう。体調に気をつけて、有意義な春の日々を過ごしてください。